

## 特集 質の高い呼吸管理を目指して



編集責任

横須賀共済病院集中治療科

磨田 裕 USUDA, Yutaka

臨床現場では人工呼吸器をはじめとする多くの機器が使われており、そのような装置や機器の保守管理を、本誌メイン読者である臨床工学技士が担っている。呼吸療法は臨床工学技士の三大業務の1領域であり、本誌では、毎年、呼吸療法に関する特集を、視点を変えたり、経験年数などを踏まえて読者対象を変えたりしながら、幅広く企画するようにしている。

たとえば、春は養成校を卒業し入職したばかりの新人臨床工学技士を対象とした「入門編」を企画している。ただし「入門編」とはとっても、実際の臨床現場で行われている治療や機器管理に必要な実践的な内容を目指している。初めて現場で治療を目の当たりにした新人も、この入門編特集を一読すれば、「あの場面で行われていたのはこういうことだったのか」「あの場面で見ただけでこういうことだったのか」と理解を深め、次のステップへと進むための知識と技術力を得てもらえるだろう。

一方、現場で経験を積んだ臨床工学技士は、呼吸療法サポートチーム(RST)などへの参画が求められるだろう。RSTではより深く多職種と連携することになり、そのためには、医療機器を使用する患者の病態や期待される治療効果、さらにはどのような有害事象が起こり得るのかなどについ

て十分に理解することが必要になる。このようなステージにある臨床工学技士に向けて小誌では、一步進んだ「質の高い呼吸管理」に貢献し得る知識と技術力の提供を目指した「上級編」の特集を組むようにしており、今年は本号でこの上級編を企画した。

本号では、呼吸管理において必要な胸部画像(X線、CT)、合併症、陽圧換気に必要な気管チューブのカフ圧管理、そしてウィーニングに関する内容で構成した。胸部画像から得られる情報と身体所見や血液検査所見などを含めて、人工呼吸器を装着した患者の病態を把握するための一助にしてほしい。合併症についてもその理解を深めることが予防につながり、また適切なカフ圧管理も合併症の予防につながる。一方、人工呼吸器からの早期離脱は患者のQOLなどの面からも重要であることから、ウィーニングの実際と、どのように臨床工学技士が携わるかについて確認してほしい。

COVID-19の流行に伴い、より適切で質の高い呼吸管理が求められており、本号を明日からの臨床にぜひ役立ててほしい。

また、COVID-19への対応でご多用中にもかわらず、本号への編集にご対応いただいた先生方に改めてお礼申し上げます。